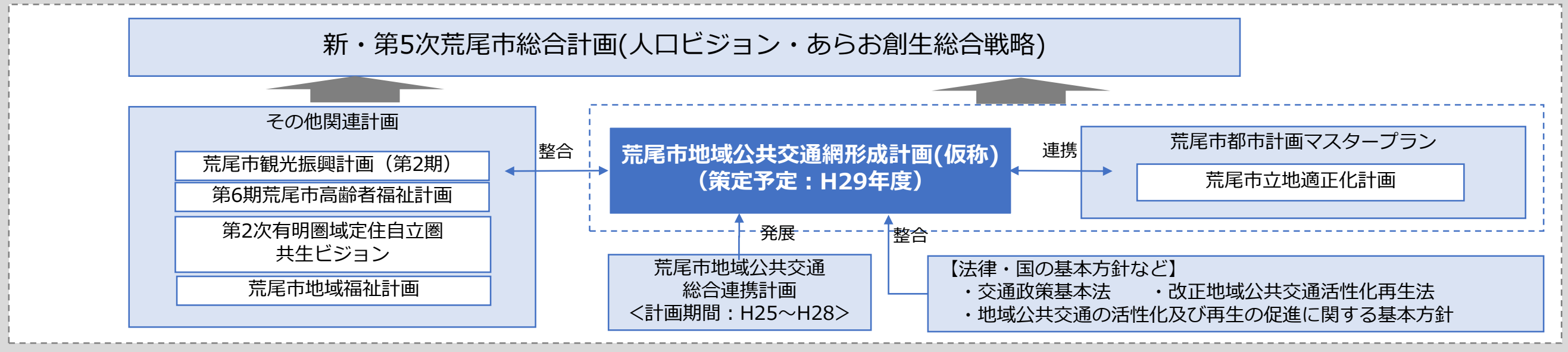


（1）計画の位置づけ



（2）計画の期間

平成30年4月～平成35年3月（5年間）

（3）計画の対象区域

荒尾市全域（ただし、大牟田市との移動の関連性についても考慮する。）

（4）目指す姿・将来像(案)

都市のコンパクト化と連携した持続可能な公共交通ネットワークを構築し、高齢者等の外出を促すことで、人の交流による地域の活力を生み出すとともに、ゆとりある健康的なライフスタイルを提供する、「人幸増加」のまちづくり

（5）基本的な方針(案)

現状・課題

高齢化の進行による交通弱者の増加

高齢者の活発な移動

移動ニーズと公共交通網の不一致

公共交通利用者数の減少

若年層における路線バス利用の低迷

利用の低迷する非効率な路線の存在

市域をまたぐ広域的な連携の必要性

基本的な方針(案)

①市民の移動ニーズに対応した
利便性の高い公共交通網の構築

②公共交通の新たな利用者の確保

③効率的で持続可能な公共交通
体系の編成

④隣接市町と連携した円滑な動線
の確保

一人暮らし高齢者の増加や目的地の多様化、運転免許の自主返納意向の状況などを踏まえ、高齢者などの交通弱者でも公共交通を使って移動しやすい路線・待合環境を整備するとともに、買い物や通院だけでなく、文化活動や娯楽なども含めた多様な移動ニーズに対応した路線網を構築する。

市外への通学・買物流動などを踏まえ、高校生の通学における利用や休日における利用、観光客の利用など、公共交通の新たな利用者を確保するための利用促進を行う。

利用の低迷する路線・区間について見直しを図るとともに、南新地地区のまちづくりや市民病院の新病院建設なども見据え、車両や人員等を市内に再配分し、利便性を維持しながら、効率的で持続可能な公共交通体系を編成する。

生活圏を一体とする大牟田市をはじめとする近隣市町と連携し、生活関連施設や観光資源を結びつけることで、広域的に円滑な移動ができるよう、市域をまたぐ生活動線や観光周遊動線を確保する。